

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松 義人
印刷所：S R S株式会社
定 価：一部30円
2015年11月20日
第**390**号

創立者のこころを受け継ぐ

どうしたら「虐待」が防げるか④

理事長 稲松 義人

小羊学園は、来年5月に創立50周年を迎えます。これを機会に小羊学園の創立者の山浦俊治先生のことをもっと知ってもらいたいと思い、社会福祉法人小羊学園として記念会の準備をはじめていきます。山浦俊治先生が亡くなられて20年が過ぎました。それ以降に就職した職員は、当然山浦先生と直接出会ってはいません。実際のところ、社会環境も大きく変化していますので、山浦先生がいらした頃と同じような仕事ができなところも当然あるのですが、いつの時代もしっかり受け継いでいかなければならないことがあるのも確かです。

例えば、「虐待」が起こらないように配慮されること、弱い立場の人たちの人権がしっかりと守られるようにすることもその一つだと思います。それは、時代の変化によって必要になったことではなく、いつの時代にもなくてはならないことだからです。

山浦先生は、著書「この子らは光栄を異にす」の中で、重い障がいのある子どもたちの存在は、「価値論」では説明できないのだと伝えていきます。しかし、実際には、世の中においては何らかの基準に

沿って判断されます。基準に沿って高い評価が得られることが「価値」あることになり、基準に合わないものは「価値」が低いのです。どのように努力しても「価値」を見いだせないものは、その社会から疎んじられます。もし、価値が感じられないものの存在を肯定するとして、そのものが存在することの「意味」について確信できなければなりません。山浦先生は、重い障害をもつ人たちの存在を肯定的に捉えるためには、彼らの中に何らかの「価値」を見いだすことではなく、彼らとの「関係」をもつことなると主張されます。当然、よい関係をもつためには、敵対し合う関係ではなく、受容的な関係でなければなりません。

そして相手を受容するためには、自身ももっている「価値観」(相手を裁いてしまう判断の傾向)についてよく理解しておかなければなりません。無意識のうちの一つの価値観に縛られていると、どうしてもその価値観に立つて相手を裁いてしまいます。相手が赦せなくなるのです。自分のことを冷静に見つめなおす心があるときに、相手を冷静な視点から受け容れることができるのだと思います。もちろん、相手を受容するといふのは、相手の行為を肯定することとは別のことです。

このことは、障がいのある人たちとの関係だけに限りません。反社会的な行為をする人、自分とは違った価値観を

もった人との関係においても同様のことが言えるのだと思います。

ですから、虐待行為に至ってしまうような人も決して孤立させてしまうことなく、周囲の人たちとの関係の中で、自身が生かされていることの「意味」が感じられるようになってほしいと思います。自分自身を見つめることのできない人は、本当の意味で自分自身のことを受容できていないのではないかと思います。

山浦先生は、「自己確知」(一般的には「自己覚知」という。)することが大切だと説明しています。自分自身を見つめ、自分自身をしっかりと受容したうえで、相手に向き合うとき、お互いに違った者として認め合う(お互いの存在を肯定し合う)ことができるのだと言っておられるような気がします。違っている者どうしが一つになる(同一化する)というのは、一見、矛盾していることのように感じられるかもしれませんが、それこそが聖書が伝えようとしている「愛」ではないでしょうか。

少々理屈っぽい話になってしまいました。たが、小羊学園の先輩たちは、自分たちの知識では十分に理解できないような人たちを受け容れ、忍耐強く向き合い、彼らの生活が少しでも豊かになるように努力してきたのだと思います。そのような実践にこそ、山浦先生が示された、私たちがしっかりと継承すべきことがあるように思います。 おわり

第7回小羊学園 ふれあい運動会

笑顔・汗 きらり輝いて！

スポーツ(食欲?)の秋真つ只中、今年も各事業所の利用者が集い、ふれあい運動会が実施されました。今年も、静岡からも「わたぐも」が参戦。各事業所の熱戦と利用者の活躍をご報告します。

みんなで走り切った徒競走

三方原スクエア 村松 浩代

開会式のラジオ体操も終わり、いよいよふれあい運動会の始まりです。最初の競技は、やはり徒競走。男子30メートル・車椅子、歩行器15メートル・女子30メートルと続きます。

スタートラインに立つ男性利用者の顔：それは戦いに挑むカッコイイ男の顔、いつもの顔とは全然違います。絶対1番になりたい、という思いが見守る私達にもしつかり伝わってきます。ゴールへの強い視線、スタートの笛と同時にゴール目指してまっしぐらに走る姿に暫く釘づけになってしまいました。接戦で勝ち取った1番は今後、大きな自信になって行くのではないのでしょうか。

車椅子15メートルではある利用者さんに感動しました。いつもはゆっくり足を使って車椅子で移動しているのですが、あの時は速かったですね。底力も言うのでしょうか、スタートを切った直



後から足の回転の速い事、速い事。あつという間にゴール、その時の満面の笑顔とどうか「ドヤ顔」は忘れられませんか。女子30メートルでは走り終えた方が職員に抱きついて喜んでる姿がありました。「良かったね。走れたね。ゴールできたね。」職員の声かけに嬉しそうなお顔。多分走れるか不安だったのでしょう。最後まで走る事ができたうれしさのあまり抱きついて喜んでる姿を見て思わず微笑んでしまいました。

パンにむかって激走

支援センターわかぎ 花本 正人

前年度までは20人ほどの選抜メンバーで参加をしていましたが、今年は利用者さん全員が参加をしました。他の競技には出ない利用者さんもパン食い競争はここぞとばかり頑張つて参加をされ、楽しく走り過ぎたのか利用者の皆さんは口にくわえず手で引つ張りゴールされました。利用者さんだけではなく一緒に走っていた職員もとても笑顔が多い印象をうけました。

今年のパン食い競争で良かった点は何と言つても利用者さん全員が参加出来た事です。少人数では見ることが出来な笑顔が今年はたくさん見れたな〜ととても嬉しく感じました。来年度以降も全員参加で計画をして行きたいと思っています。

来年は職員全員分のパンも用意して頂ければと強く思います・・・。



エキゾのダンスに

エキゾチック

オリブの樹 太田 恵輔

小羊学園ふれあい運動会の昼休みと言えば、エキゾチッククラブさんのエキゾチックダンスです。昨年度は、こちらの都合によりダンスを観る事ができませんでした。しかし、今年度は、恒例のダンスを、皆さんで見ることができました。利用者の方々も、リズムに合わせてダンスを踊ったり、音楽に合わせて手拍子をして、とても楽しい時間を過ごすことができました。競争以外の場面でも皆さんが活躍し、盛り上がる事ができる企画があることはとても嬉しいことです。来年の運動会までにダンスの練習をしないとイケないですね。



箱・かごを目指してスローイン

小羊デイケアホーム 高林 重誓

玉入れは2施設同時に行いました。より多くボールをゴールの「箱」と「かご」に投げ込まれたチームが勝者です。ゴールの中にはどんどんボールが投げ込まれていきます。直球勝負でおもいきり投げる人、足下のボールを上手に拾えない人、ボールを握ったまま他の人が投げるのを応援する人、職員に手を添えられてスローボールを入れる人。様々な白熱したプレーが見られました。多くの皆さんが笑顔で楽しんでいました。競争時間はホイッスルがなるまでわずか30秒ですが、ゴールの周りにはアリーナ全体からも熱い視線が注がれました。



玉転がし

転がされたのは???

マルカート 青島 渚

玉入れで勝利を収めた事業所は、ここで一気に点数を稼いだところ。逆に負けた事業所は、リレー前に勝利を収めたい踏ん張り所でもあり、選手はもちろん、応援席側も盛り上がり。大玉転がしの見所は、最後まで目が離せないところ。選手の方へ運んでいきました。時には大玉が何処かへ行ってしまふところもあり、笑い声が飛び交う場面もありました。ゴールした時には、皆で喜びをわかち合うなど、各事業所らしさが見えた。競技だったと思います。利用者さん、職員が一丸となってゴールを目指す姿は、勝敗に関係なく会場を感動に包みこんだように感じました。



初、遠征

わたぐも 高村 慈恵

いつもと違う場所、人、音。そして、その雰囲気には心地よい緊張を感じた。到着した時にはすでに競技が始まっていたが、遅れてきた私たちをも違和感なく参加できる雰囲気、あの広い体育館が温かさで満ちていた。声を掛けてくれる他施設の職員にどれだけ安心したことだろう。

毎年、わたぐもで企画している運動会は重症・心身障がいの利用者に合わせたルール、内容、時間配分で、どちらかというとのんびり、ゆったり。ところが、今回は違った。徒競争も早い！玉入れも早い！あつけにとられていたわたぐも利用



者だが、やる気に火が着いた様子。出来なくても競争相手がいるのは楽しい。勝つても負けても誰かと夢中になれることがうれしかったようだ。帰りにSAでソフトクリームを食べて、シメまで楽しい一日になった。

ふれあい運動会 実行委員に聞きました！

実行委員長 三方原スクエア 西村 和也 さん

- 今年度のふれあい運動会で意識したことは？
前年度までの反省を踏まえたスムーズな運営（移動・食事など）
- 運動会の開催中に感動したことは？
つばさ静岡（わたぐも）の利用者さんが玉入れに参加したこと
- 利用者が楽しめるように心掛けたことは？
わかりやすい表示（ゴールなど）やルール説明
- 次年度への反省を聞かせてください
リレーのルール見直し。期待とし「つばさ静岡」枠の拡大





10月28日、支援センターわかぎこすもすホールを会場に、ヤマハチャリティーきゃらばん「三びきのやぎ草星をめざせ!」公演

「三びきのやぎ草星をめざせ!」公演

10月28日、支援センターわかぎこすもすホールを会場に、ヤマハチャリティーきゃらばん「三びきのやぎ草星をめざせ!」が公演されました。ヤマハ労働組合連合会が主催し、劇団「つばさ」が全国各都道府県をキャラバンで回るイベントとして企画され、今年も支援センターわかぎにお声をかけていただきました。法人内の施設にも呼掛けをして、オリーブの樹・小羊 daycare ホームの利用者、そしてばびるすの子どもたちも観賞しました。三びきのやぎ達が草星を目指す中で、笑いあり・冒険ありの人形劇はとても魅力的で、また音響や照明の効果もあって、感動的な劇でした。送迎の関係で、

ヤマハチャリティーきゃらばん
「三びきのやぎ草星をめざせ!」
公演

びるすの子どもたちは退席を余儀なくされ、とても残念そうに会場を後にしたのも印象的でした。開催にあたり、ヤマハ労働組合連合会の皆様、劇団員の皆様、ボランティアの皆様と多くのご支援をいただき、この場を借りてお礼を申し上げます。

**三方原スクエア
秋祭り開催!**

11月7日(土) 薄曇りでしたが、暖かな日の中、三方原スクエアで2回目となる秋祭りが開催されました。恒例のバザーや模擬店、オリーブの樹や小羊 daycare ホームのパンやパウンドケーキ、クッキーの販売、御前崎にある喫茶店「カフェつなぐ」の出張喫茶など

**小羊学園を支えるボランティア
日本基督教団 東海教区
西静分区婦人会 様**

西静分区婦人会は日本基督教団東海教区の静岡県西部地区に所属する教会に籍をおく婦人会の有志。小羊学園には遠州教会・浜松教会のご婦人を中心に奉仕にお越しくださいます。浜松元城教会・遠州栄光教会・気賀教会などのご婦人方も、他のキリスト教主義施設へ奉仕に行かれているようです。現在は、3名の方が毎月1回第1月曜日に洗濯物畳みや裁縫の奉仕をしてくださっています。年齢的にも厳しくなつてこられ、今年度末で区切りをつけられる予定です。これまでの永年の奉仕に感謝申し上げます。



と盛り沢山。午後のイベントは聖隷クリストファー高校の吹奏楽や新人アトラクション、三島市の見晴学園利用者からなる「げんき玉」の打楽器演奏、最後は、はっぴー太鼓、みをつくし太鼓の和太鼓演奏で幕を閉めました。予想以上の賑わいにご父兄や職員の昼食がなくなつてしまふアクシデントがありました嬉し悲鳴でした。

編集後記

秋になると、市内の中学校が福祉体験として、社会福祉施設を訪れ学習する。今年も浜北区・東区内の5校が支援センターわかぎで体験学習をした。多感な時期の生徒たちは、総じて初めは緊張感漂っているが、終わり掛けになると笑顔で「楽しかった」「はじめは怖かったけど、触れ合ううちに怖くなくなった」と口にする。子ども時代に様々な経験をし心豊かな大人になることを願い、その一助を利用者さんが担っていると思うと感慨深い。

木枯らし吹き、本格的な寒さの到来です。暖かなスープと心温まる会話で、寒さを吹き飛ばしましょう。お身体どうぞご自愛ください。

(F)

小羊学園を支える会

2015年度 寄付金報告

10月 受付分 626,120円 (18件)
累計 5,056,850円 (131件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
小羊学園法人本部 ☎053-584-3337